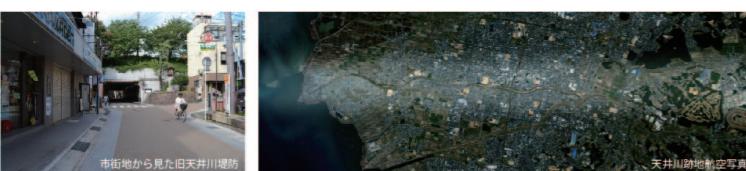


# 天井川跡地リノベーション計画

- 残存インフラの再編による都市の機能強化 -



## ■リノベーション対象・背景

リノベーション対象は、滋賀県草津市に位置する旧草津川です。この旧草津川は、かつて世界的に著名だった天井川であり、現在は廃川となっている天井川跡地です。

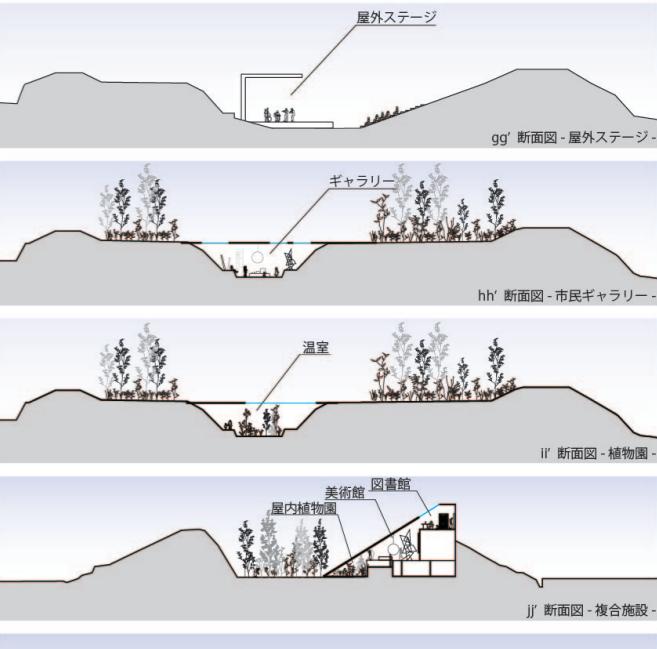
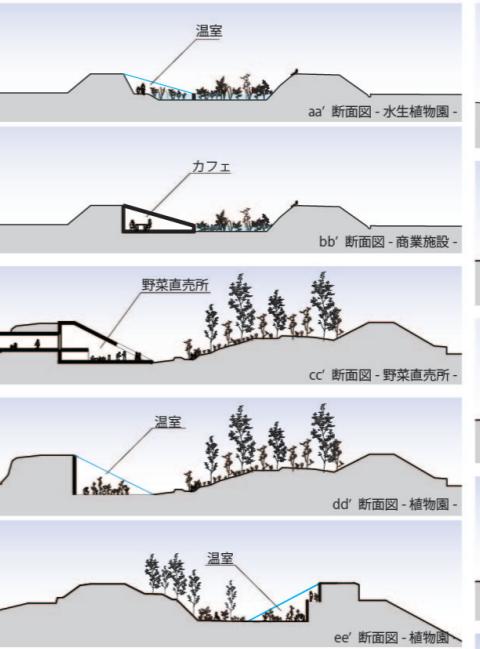
かつて流水があった頃には、度重なる水害をもたらしており、治水の目的で、平成14年に新しい草津川放水路に通水が始まり、旧草津川は廃川となりました。現在、市街地を南北に分断する広大な河川跡が堤防とともに残されており、その旧川床は、市街地で平地より5~6m、堤防まで9~11mの高低差を有しています。自然および人為作用両方の相乗効果によって形成されたこの大きな天井川跡は、草津市の歴史の担い手として、歴史的・文化的価値を有しています。東海道沿いの宿場街の面影を残す歴史地区や草津市の中心市街地、田園部をまたいで琵琶湖へとつながる広大なオープンスペースとなっています。様々なエリアをつらぬくこの広大な未利用地を活用することは、都市機能に大きな影響を与える可能性を有しています。

## ■Concept

現在広大な空き地として存在する旧草津川（天井川跡地）を市街地の中の憩いの場及び文化施設、生活の基点として再編します。

市街地を東西に横断する旧草津川内部は高い堤防により市街地と切り離されて、別世界性を有しています。この堤防により形成される空間を生かしながら、堤防内に屋外植物園や緑地帯、公園を形成します。これにより、市街地の中に広大に伸びる、別世界性を持った憩いの場を作ります。

さらに、隣接建物や各エリアの特徴に合わせた用途の建物を配置し、堤防内空間の充実化とともに、堤防外の市街地との関係性を作り、相互作用を促します。各施設は、既存堤防によって形成されている空間を生かすために、施設を堤防に差し込むように設計します。これらのことにより文化的価値のある旧草津川を後世に残すとともに、憩いの場及び文化や生活の基点としての新たな価値を付加し、都市全体の機能強化を図ります。



aa' 断面図 - 水生植物園

gg' 断面図 - 屋外ステージ

cc' 断面図 - 野菜直売所

hh' 断面図 - 市民ギャラリー

dd' 断面図 - 植物園

ii' 断面図 - 植物園

ee' 断面図 - 植物園

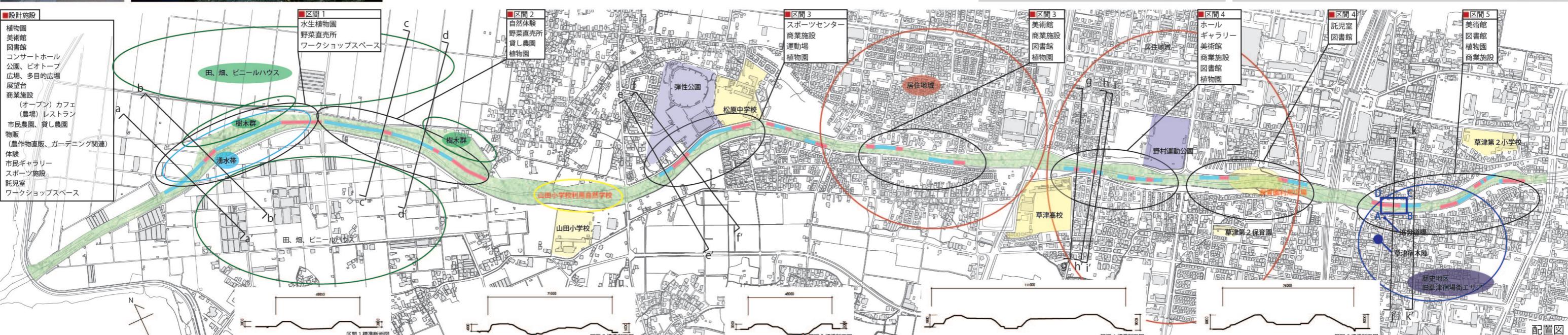
jj' 断面図 - 複合施設

ff' 断面図 - スポーツセンター

kk' 断面図 - 植物園

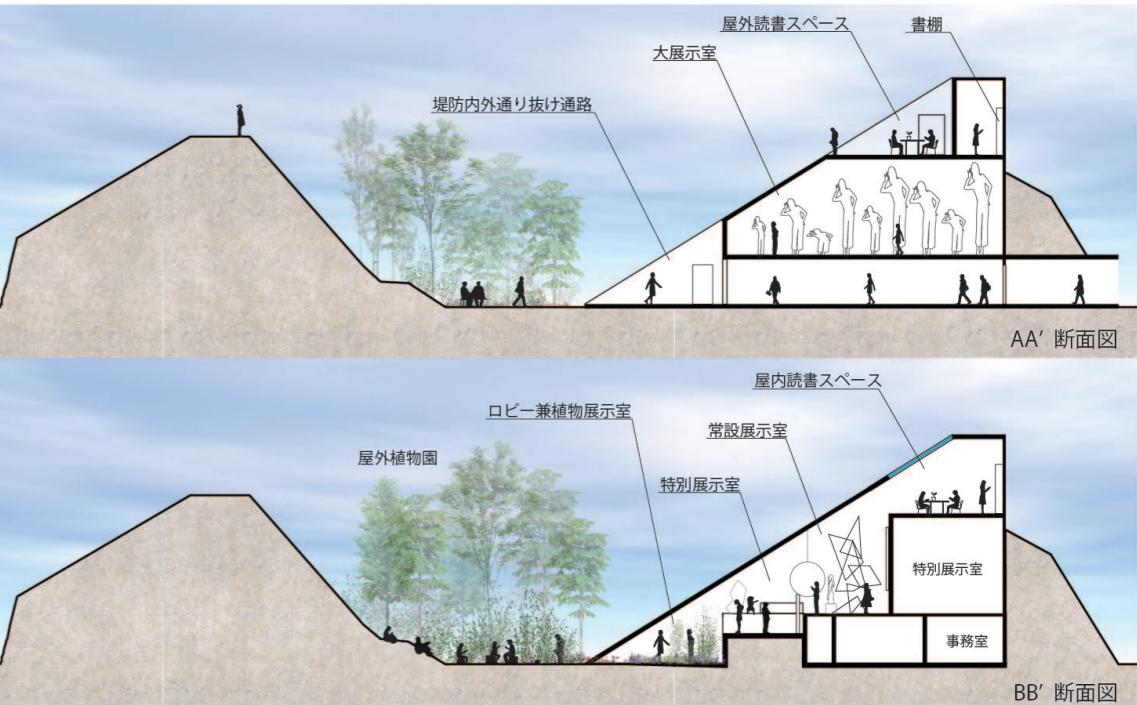
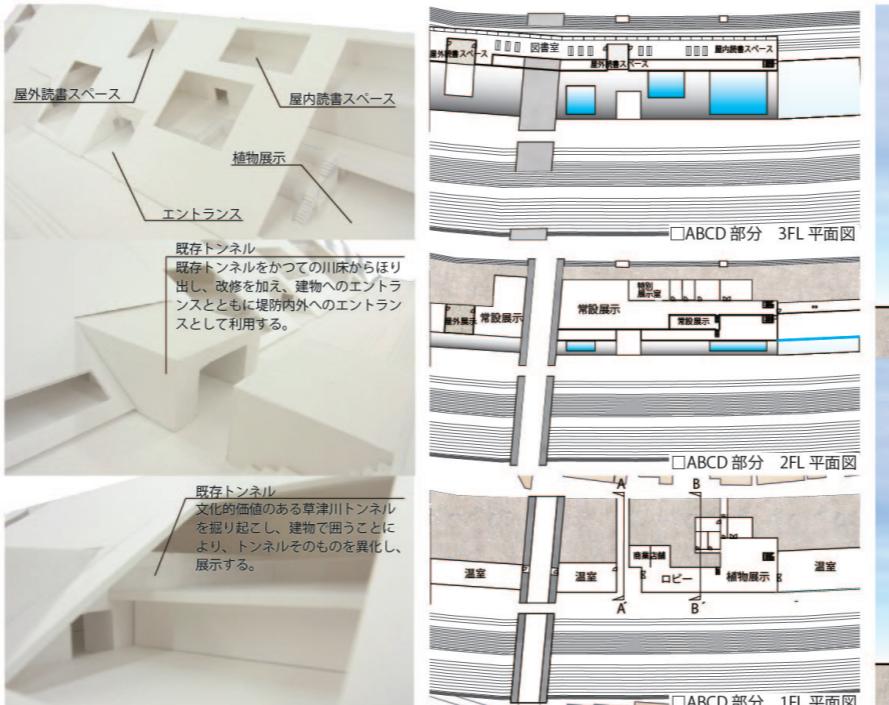
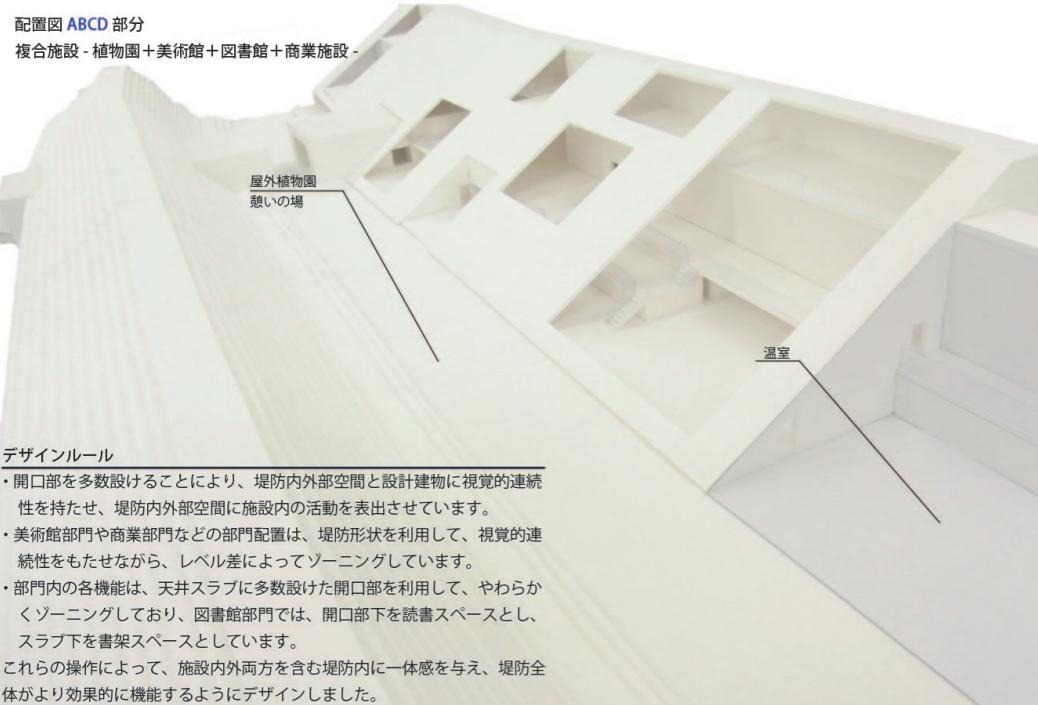
ss' 断面図 - 植物園

tt' 断面図 - 植物園



配置図 ABCD 部分

複合施設 - 植物園+美術館+図書館+商業施設 -



## デザインルール

- 開口部を多数設けることにより、堤防内外部空間と設計建物に視覚的連続性を持たせ、堤防内外部空間に施設内の活動を表させています。
- 美術館部門や商業部門などの部門配置は、堤防形状を利用して、視覚的連続性をもたせながら、レベル差によってゾーニングしています。
- 部門内の各機能は、天井スラブに多數設けた開口部を利用して、やわらかくゾーニングしており、図書館部門では、開口部下を読書スペースとして、スラブ下を書架スペースとしています。

これらの操作によって、施設内外両方を含む堤防内に一体感を与え、堤防全体がより効果的に機能するようにデザインしました。